

令和５年度まちづくり懇談会 特別企画
「若者・子育て世代編」
～東京応化工業株式会社労働組合との懇談～

1. 懇談会のテーマ

「町内事業所と町が協働する、住みよいまちづくり」

- ① 事業所として／町民として思う寒川の良いところ・課題に思うこと
- ② 事業所と町が協働（協力）して地域のために実現できること

2. 日時・会場

令和６年２月９日（金） 午後６時～８時

東京応化工業 株式会社 相模事業所 ２階会議室

3. 参加人数 １１人

4. 町出席者

木村町長、畑村副町長、菊地町民部長、岡野町民協働課長、
町民協働課協働推進担当職員（４人）

①事業所として／町民として思う寒川の良いところ・課題に思うこと

参加者	町長	懇談後の所管課の 確認・補足
(町民部長) 1つ目のテーマ「事業所として／町民として思う寒川の良いところ・課題に思うこと」について、1人2分程度でご意見をいただき、町長にコメントをいただきたいと思います。		
【寒川神社と交通インフラについて】 町の良いところとして、寒川神社というのは、もう完全にシンボルになっていると思います。神社もそうですが、PR活動が非常に優秀だと思っており、八方除けの由来等を調べていけば、非常に面白いところもあり、いいところだと感じております。 逆に悪いところ、課題についてですが、やはり交通インフラの部分の気がなっています。事前に組合内でも話をしていたのですが、交通インフラについては結構意見が挙がっていました。寒川神社に関係するところですが、年末年始の参拝客が非常に多いと思います。周辺の交通渋滞は、どうにかならないのかと感じております。私は海老名に住んでいるのですが、三が日は海老名市内まで渋滞が広がっています。何とかしてほしいという思いがあります。	寒川神社は、様々なPR、神社の祭事があります。今月2月11日は紀元祭、紀元節という催しがあるのですが、年間を通してみても、毎月のように何事かの催物がある状況です。 加えて寒川神社そのものが、歴史的には1600年という長い歴史があり、神社があることによって、大きな災害が起こらないように、厄除け、八方除けの神社となっています。 寒川は災害が少ない町であると、そういう思いの方が、大変多くいらっしゃいます。また本来、寒川神社は水の神様を祀る神社です。潤沢な水源がありますので、その関係で企業庁の水道事業所も寒川にあります。 今申し上げた特徴もあるのですが、寒川神社も、年始の三が日だけで参拝される方が48万人ほどいらっしゃいます。 年間200万人の参拝客が訪れる、とよく言われますが、恐らく今年は、去年よりも1割、2割は増えると予想されています。三が日だけではなく、2月の中旬ぐらいまでは正月並みの混雑や渋滞もあると思います。三が日は道路の交通規制をしているので、神社の中には入れませんが、個人で有料駐車場をやっている方も多くいらっしゃいます。寒川神社の駐車場は無料なので、まずその駐車場から埋まっていくことになります。 しかし三が日はその駐車場までの道について、車が規制されますから、影響	道路課 整備担当 交通量の多い道路における歩道等の整備については、優先順位を定め可能な限り整備を行っているところです。しかしながら、用地の確保には多くの時間と費用、沿線住民のご理解とご協力が必要不可欠であり、早急な対応が困難なのが実情です。 そのような場合は

	は周辺までだんだんと広がってしまいます。海老名方面の方は、車で来るよりも、目久尻川、川沿いに歩いて来られる方が多いです 昨年の11月後半に、テレビ番組で午後8時頃のゴールデンタイムに寒川神社の30分程度の紹介がありました。そして、その番組が放送された翌日から、正月並みの混雑になってしまったそうです。そのため、12月もほぼ毎日、周りの道路は大渋滞、駐車場もいっぱいになっていました。寒川神社はお正月には例年大変大混雑しますので、神官さんや巫女さんは休みなしで働かれています。例年12月までは半数ぐらいが交代で休んでいるとお聞きしました。ところが、昨年の暮れは多くの参拝客のため、非常に忙しい状況でお仕事をされていました。 そのような背景があり、寒川町というよりも、寒川神社と言ったほうが町外、県外の方は分かりやすいようです。寒川病院や介護老人施設、神恵苑なども、寒川神社の経営です。町の町営で病院を持つとなると非常に大きな負担となります。近隣の市町村についても、市民病院というのは経営が厳しいと聞いております。 話が長くなりましたが、決して寒川神社は地域に貢献されていないということはなく、寒川神社があることで、安心感も生まれていると言えます。 また、縦貫道路も開通したこともあり、北インターあるいは南インター経由で、かなり遠方からお見えになる方もいらっしゃると思います。そのような交通アクセスがよくなったことが、より渋滞に拍車をかけていると考えられます。神社のホームページでも極力、参拝は交通機関、公共交通機関を使ってくださいというようなお願いはさせていただいております。昨年末に、相模線の宮	代替案として、グリーンベルトの設置による歩車分離を通学路を中心に進めております。 歩行者の安全確保における費用（グリーンベルト等の設置にかかるもの）は、毎年計上しており、今後も継続して対応してまいります。
--	--	--

	山駅も改修されてきれいになりました。相鉄バスの方からも、「今年は大変混雑しました。例年に比べると大体4割ぐらい利用者が多いです」と伺いました。混雑回避で公共交通機関を使用している方ももちろんいらっしゃいます。町の道路は、幅員が決して広くありません。県道は歩道部分もあり、歩行者も安全に歩けますが、町道については、一部を除いて、歩道も満足にない状況です。そのような道路に制限なく車が入って、基本的には県道という幹線道路を使用していただき、生活道路、街区道路については、そのエリアの方に使っていただく必要があります。時間規制や、極端な場合は一方通行等、そういう規制もしなければいけません。道路自体については、町道の場合、住宅がありますので、単純に広げるということができません。 歩行者の安全空間を取ることによって、車の方は多少不便になるかとは思いますが、歩行者の安全第一ということで、これからも対応していきたいと思っています。 町も公共交通計画、地域の公共交通も行っておりますが、土地については広げられないという部分がありますので、かなり狭い道路にも車両が入ってきている現状を何とか改善するよう、努力しております。	
【特産品のPRについて】 町は昔、農業が盛んだったと聞きました。知る人ぞ知るといことで、イチゴがおいしいことや、梨を使ったワインがあります。有名な福岡県や栃木県のイチゴと何ら変わらないぐらいおいしいです。むしろ、町にずっと住んでいるので、寒川愛が少しあることもあり、町のイチゴの方がおいしいと思って	ありがとうございます。寒川の農業、生産物も、単にお米と野菜だけではありません。今言われたイチゴや梨も栽培されています。昔は、農業といっても畜産、牛、養豚、養鶏などもありました。ところが、そういうことができる環境が減ってきてしまいました。住宅が増えて、人が増えると、臭いの問題など、その施設の隣接する所から様々な苦情が出る。当然ながら、その生産をされて	

います。恐らくほとんどの人が、町のイチゴだったり、梨を使ったワインとか、あまり知られていないと思っています。そこをもっとうまくPRしていけばいいと思います。	いる方は、昔から農業に従事していますので、新しく住んできた方よりも先に手がけているのですが、生活圏の声が高くなってきます。そういった環境問題が、次の時代に事業がつながっていかない、事業承継ができないという問題を生んでしまいます。梨畑がだんだんと、駐車場になったり、時代とともに変化しています。町はもっと続けていただきたいと思っています。しかしどうしても難しい。梨ワインは私も飲みましたが、おいしいワインだと思います。知る人ぞ知るものかもしれません。しかし限定品で製造、本数も限定されているという背景もあります。 また、ご存じの方がいるかもしれませんが、湘南マスクメロンというメロンがあります。かなり価格が高く、希少価値が高い。町でも、昔はマスクメロンを作っていた方が今よりもいましたが、少なくなりました。 マスクメロンの裏作として、スイートピーの栽培があります。スイートピーの花が終わると、その場所でマスクメロンの苗を育てています。マスクメロンも1本の木から1つの玉しか作れません。甘みを強めるために1つの玉以外は落としてしまいます。私も一時、幻のマスクメロンについて、記者に話をしたときに、記事になりました。注文が殺到してしまい、生産者から「そんな簡単に増やせるものではない」と、怒られたことがあります。このようにPRについても注意しないといけない状況もあります。	
【町の住みやすさと未整備の地域について】 良いところについてですが、非常にのどかで住みやすい点かと思っています。私は町に住んでおり、生まれ育った地です。自然もすごく豊富で、本当	居住地域に必要な条件は、安全の確保と環境対策、そして私がよく話すものとして、健康づくりがあります。健康で、なおかつ環境がよくて、安全性が確保されれば、本当に住みやすい町だと	

にいい意味でのどかで住みやすいと思っています。

住みやすいというところの部分に対しては、車を持っていればという条件つきにはなってしまうのですが、車を持っていれば、いろんな所にもアクセスしやすい町だと思っています。

反面、弊社のような工業会社などの、工業も栄えているような町だと思っており、自然と工業がバランスよく栄えている場所だと思っています。会社が栄えると、外から来る人も増えるので、町を栄えさせる意味では、両方大事だと思っています。

町の課題について、のどかさ故に、道がまだ整備され切っていない部分が多いと感じています。先ほどの交通とも関わりますが、仕事の帰りが遅いと、夜暗い時間、歩いて帰ることになります。街灯がなくて暗いです。この周辺もそうですし、あとは茅ヶ崎市から町に来る道についてもそう思います。街灯がなくて非常に暗い。男性だと気にしない方もいるかもしれませんが、人によっては、結構怖いだらうと思うので、そういった安全面の整備は進めてほしいと切に思っております。

非常に平和でいい町だとは思いますが、だからこそ、もっと住みやすいようになってほしいと思っています。

思います。

町はご存じのとおり平坦な地形、土地なので、一番低いところが標高6メートル、一番高くても、菅谷神社の周辺で26メートルです。そのため高低差20メートルしかありません。海岸には直接面していませんので、津波の心配も少ない。しかし、やはり川については、相模川と目久尻川と小出川が流れていますが、全て1級河川です。津波が来た時に遡上しないという保証はどこにもない。やはり自然に対する備えも必要だと思っています。平坦な町なので、小高い所へ上がれば、町全域や隣の自治体が目に入ってきます。東京応化工業さんの場合は、相模川が近くにありますがし、富士山もよく見えると思います。景観的には非常にのどかな自然風景があると思います。そのような特色はあまり変えたくはないと思っています。

そのため高層の建物は極力抑えようと、高度地区の設定をしています。ただ工業エリアは高さを30メートル近くまで伸ばしても構いませんが、それ以外の住宅エリアは、基本的には12メートル、低層でという方針です。それは平坦さが故に、景観を損ねやすいという理由があります。役場の北側にさむかわ中央公園がありますが、近隣の方、町外の方の利用者が非常に多くて、お子さん連れで結構遊んでいます。平坦なだけに、よく見えますので、安心して子どもたちが遊べます。

平坦であるが故に町は空が広いと言われます。建物が低い関係で、空が広く見えます。その景観を残してほしいという声は多い。

道の暗さについてですが、毎年、小学校6年生を中心とした子ども議会という事業を行っています。その子ども議会で必ず質問として出るのが、町が暗

(町長の発言に対して) ありがとうございます。景観は確かにいい。弊社は、海外からのお客さんも結構いらっしゃいます。そういう時に、一番奥の会議室を使うと、富士山がちょうど見えます。それだけで喜んでもらえ、景観がいいと実感しています。反面、本当に暗いです。1度、会社の寮まで皆さん歩いてみていただき、暗さを実感していただきたい。会社等は防犯灯の設置について要望できないのでしょうか。	いという内容です。夜、塾の帰りが暗くて危ないから、もっと防犯灯なり街灯を増やしてほしいという意見です。もちろん増やしてはいます。増やしていますが、まだまだ、やはり明るい所とそうでない通常の防犯灯だけの所を比較すると、明るさにかなり差が出ています。町の施設もそうですが、防犯灯は全てLEDに替えています。3,720灯、町内にありますが、私自身も、夜に町へ入ってくると、暗いと感じてしまう。その対策は引き続き行っていきます。明るさについてはに必要な部分です。防犯灯の設置は、各自治会にお願いして、地域で、ここは暗くて防犯灯が必要だと思う所を確認してもらい、優先的につけています。まだ至らない部分はあると思いますが、極力設置箇所を増やして、明るい安全な環境対策をしてまいります。よろしくお願いします。 (参加者の意見に対して) 直接、町民安全課に相談してもらっても構いませんが、自治会からの要望が地域の方、住んでいる方の一番身近な声ということで優先的に取り入れています。しかし、皆さんが働く場所も安全に安心して移動できるようにしなければならぬと思います。	町民安全課 防犯・交通安全担当 3月末現在の防犯灯数は3746灯になります。 町民安全課 防犯・交通安全担当 会社等からの要望も受け付けております。
【相模川の堤防工事と町のPRについて】 良いところに関してですが、いろいろお話にも挙げた事も含めて、相模川の堤防の工事が、やはりよい点かと思えます。今年の始めに能登半島地震もあり、それ以外の地震もあり	相模川については、上流にあります神川橋からさらに上流部分が県の管理となっております。神川橋から下流が国土交通省の直轄エリアです。相模川の河川敷の活用について、本当は町としても、もっと広く水辺の整備をして、	

ました。災害対策について、町民が安心できるまちづくりをしていると感じています。

課題と思う事としては、テーマ2にも関わりますが、寒川神社のアピールで弱いかと思っています。町の人口ビジョン等の関係で、人口が減少すると税収が減ることから、税収を上げるために人口を増やすか、ふるさと納税等のほかのところから取ってくる話になると思うのですが、寒川神社のほか、イチゴの話など、そういうところとの兼ね合いもお聞きしたい。

(町長の発言に対して)

厚木市や海老名市の周辺は道がきれいに整備されていますね。

横に低水護岸という、水に近い所に低水の護岸ができれば、かなり河川敷も利用頻度は高まると思っておりますが、現状では、国、県どちらの管轄エリアもそこまで整備されておられません。

しかし、さがみ縦貫道路ができたことにより、堤防の護岸、堤防については、整備が進んできております。堤防の上をさがみグリーンラインとして、相模原市から平塚市までつなげる計画が現在進んでおります。町でも倉見地区、宮山地区と整備が進んでいますが、まだ繋がっておらず、整備している地区と地区に切れているところがあり、課題であると認識しております。なるべく連結させていきたいと考えております。しかし連結していくには、迂回路を造る必要があります。その堤の中に入るために、少し斜めの道を造って、堤に上がって向こうに緩やかに下りることができる、そういったものを造らないと連結することはできないので、時間がかかっています。

県が整備を順次進めていますので、できれば相模原市から茅ヶ崎市の海岸まで自転車を通ると、すばらしいサイクリングロードになります。対岸の平塚市、厚木市は整備が済んでいる箇所もありますので、こちら側の岸も合わせていきたい。

(参加者の意見に対して)

そうですね。毎年、国や県に要望、陳情で直接足を運んでおりますが、全国各地からも陳情・要望がありますので、速やかに対応していただくのは非常に難しい。今回の石川県、能登半島地震のような災害が起きた場合は、国費も優先的に充当されます。

市町村は、基準的な収入と基準的に支出する需要額の差が黒字になると普通交付税がもらえない、俗に言う不交付団体で、町も不交付団体となってい

	ます。企業誘致等を行ったことにより、多市町村と比較すると、税収が比較的多いです。 先ほど、ふるさと納税についてお話がありましたが、ふるさと納税の返礼品として特産物を作る必要があっても、畜産も、養豚も、町の中では盛んではありません。海産物も海に面していませんのでありません。そのため、地産地消という観点からすると、花の生産になります。そういった背景から、ふるさと納税の返礼品のなかで農産物の比率が高いのは、町で作られている花が多いです。 色々な花の品種があり、シンビジウム等の様々な花もございますが、花はご存じのように咲く季節がありますので、年間を通してというわけにはいきません。そこが課題となっており、町も、ふるさと納税では、入ってくる金額よりも出ていく金額が多い。 工業がメインの町ですから、工業製品等で、ふるさと納税に資するような、納税の返礼品にふさわしいと思うものを企業の皆さんからも、ぜひご提案いただきたいと思います。	
【交通面における町の利便性】 私は町の隣の藤沢市にずっと住んでいます。そこで生まれ育ちました。なので、寒川の事は昔からよく知っています。寒川町はいいところが、いっぱいあると思っています、産業を誘致している点は非常に強いと思っています。産業を誘致して、インターができて、交通の便としては、非常に利便性が高いと思います。 観光に関するものがない、商業施設がないと言われていることもあります。逆に車があれば平塚市、茅ヶ崎市にも行き	ありがとうございます。本当に住みやすい町として、「住むのなら寒川町」となるように、思ってください。それには当然条件があります。安全の確保や、環境対策面でのプラスアルファ、ほかにはない住みやすさと要素をもっと付け加えていく必要があります。 住みやすさについては、税負担が少ないこともありますが、子育てがしやすいことや、医療が充実していること等でしょう。 特に今、若い方からは、買物のしやすさではなく、子育てのしやすさは多く聞きます。それには、やはり教育が関わ	

やすいし、商業施設に車で15分ぐらいで行ける事は、すごい強みだと思います。町として逆に、商業施設を誘致するのは、土地面積の関係上、難しいかと思いますが、そういった観光や商業施設は他の市に任せ、逆に住みやすいといった部分で戦っていけば、町としては、また別の優位性で戦えるのではないかと感じております。	ってくると思っています。子育てしやすいことと、教育環境についてです。それらをサポートすることは、安全なエリア、環境づくりということになります。 築年数が相当の公共施設が多く、40年以上経っている建物がほとんどです。公共施設の再編、造り変える、あるいは配置を変えることを現在検討しております。 教育施設だけを見ても、小学校5校、中学校3校ありますが、8校から6校へ縮小するという教育委員会からの提案も来ています。それは、これからの人口推計を見ると、児童数が増えないと予想されるためです。コンパクトな町域だからこそできる学校の再配置があると思います。数を減らしても、距離が近いので、みんな、通えます。平坦な町ですので、山や坂等の分断要素はありません。また、文部科学省が示している通学距離の基準から見ますと、町は基準の半分の距離にしたとしても、なお通学エリアが他の学校の通学エリアと重複部分が生じる大変恵まれた環境にあります。本来は標準距離が小学校でおおむね4キロ、中学校でおおむね6キロですが、町の場合は小学校でおおむね2キロ、中学校でおおむね3キロとなっています。 教室やグラウンド等の設備も、もう少し整えていく必要があります。現在、各小・中学校に外国人の英語指導者が1人ずつ常駐しております。英語の授業だけではなく、色々な文化の交流を行っています。 私も学校へ行って授業状況を見ることがありますが、今の子どもたちは、自発的に自分なりの言葉で話そうとしています。英語の会話にはなっていないかもしれませんが、単語を並べて、何とか話そうという気持ちを感じました。	
--	---	--

	そうすると相手も答えてくれる、そういう言葉の壁をすぐ乗り越える力が子どもにはあります。 現在はタブレットを使用して授業を行っていますが、タブレットの操作についても、教える先生より子どもの方が速いことさえあるのではないのでしょうか。そのくらい順応性の高い子どもたちだからこそ、今の環境や、様々な公共施設の状況も変えていかなくてはならないと思います。 子どもたちに様々な体験もさせてあげたいし、町内にこれだけ多くの企業があるということも、もっと知ってもらいたいと思っています。 特定の企業のみに行くのではなく、色々なものを見て、私たちの生活に必要なものが、形を変えて、そういう商品、製品になります。その元となるものを作っている町内企業があるということを意外と知っている方が少なく感じます。 産業まつりも開催していますが、イベントをやっているのではなく、町の産業の紹介という意味が大きいと感じています。企業紹介についても、毎回同じ会社ではなく、順番にしてもらえると、より良い機会になると考えています。	
【若者に向けた町の発信について】 若者や子育て世代が町に来てほしいという内容だと思うのですが、私の実体験をもとにお話しします。今の時代、どこに行こうと思ったら、Instagramで調べて、おしゃれなカフェや、おいしいカフェがあれば、それが辺りな土地にあっても行きます。いくら離れていても行こうって思うんです。 そう考えた時に、まず住むと	おしゃれなというと、難しいところがありますが、今現在そういった商業施設やお店の計画としましては、医療機関や、ドラッグストアが非常に増えています。数は現在もあります。さらにここで新たに3つ、4つと計画が出ています。食品も売っておりますし、日用雑貨まであるので、利便性は向上していくと思っています。	

か以前に、知ってもら、足を運んでもらう、こんな所があるんだというのをただ知ってもらだけでも十分いいのかと思っています。子育てする時に移住してきてもらえればいいと思いますし、大きい商業施設もすごくいいと思うのですが、コンパクトな町だからこそ、寒川神社の近くではなくてもそういう小さなカフェのようなお店を、誘致した方がこの町に合っているのかと思いました。

(町長の発言に対して)

時代に合っていると思っても、すぐ廃れてしまう時もある、なかなか難しいと思いますが、そういうのが1つでもあったらと思います。あと、広報が優秀です。町のLINEを通じて、コロナワクチンを予約しようとお知らせがあって、町のLINEに登録したら、2、3日に1回の頻度で、12時に通知してくれます。イベントがあります、バドミントンクラブが開催されます等の通知がたくさん来るので、ちゃんとやってくださっていると、いつも思っています。なのでそこをうまく活用して、こういう新しいカフェができました等の情報や、これがおいしいという情報をお知らせしてくれたらいいと思います。

(他参加者の意見)

寒川神社の比較対象としては川崎大師だと思っていますが、川崎大師は年間約300万人の参拝数があると聞いております。寒川神社だと約185万人という事で比較すると、町

(参加者の意見に対して)

もう少しつながりが欲しいと私も思います。点と点につながる部分がありません。つなぐ事が出来れば、面として広がってくると思っておりますが、もう少し神社の周りの広い土地の方に、アプローチする必要があるのかと思いま

道路課 管理担当

交通量の多い道路における歩道等の整備については、優先順位を定め可能な限り整備を行っているところですが、しかしなが

のこの規模で200万人弱集められているというのは、すごい強みなのではないかと思えます。しかし逆に足りていないものというのは、宮山駅からの道ではないでしょうか。周辺に特に足を運ぶような場所がなく、若い方が言うバズる要素がないと、なかなか目に留まりにくいと思います。もう少しそこに力入れた方がいいのではないかと感じています。寒川神社自体、YouTube や、テレビコマーシャルが、広告も流れるように今なっていると思うので、そこからさらに踏み込んでみてはどうでしょうか。寒川駅に向かう途中にも、何かあっても良いのではと思っています。	す。寒川駅とさむかわ中央公園、それと別で寒川神社と宮山駅で1つのラインとして捉え、北から来た方は経由して茅ヶ崎市にも出ることができるような観光ラインになる道と、それなりの街並みも作っていかないとはいけません。 去年末にテレビで、寒川神社の紹介番組を見ました。宮山駅から寒川神社に行くまでの狭い道が映像で流れていましたが、これでは難しいと感じました。元々は県道でしたが、今は町に移管されました。歩行者が通れる幅員を作る必要があると思っています。車道の幅を狭める案もありますが、安心して歩ける幅が必要です。先ほどの意見のとおり、道の暗さもありますが、安心して歩く事が出来る道を確保したいと思っています。一度に全部はできませんので、人が多く集まる所を優先的に取り組みたい。	ら、用地の確保には多くの時間と費用、沿線住民のご理解とご協力が必要不可欠であり、早急な対応が困難なのが実情です。 歩行者の安全確保における費用（グリーンベルト等の設置にかかるもの）は、毎年計上しており、今後も継続して対応してまいります。
--	---	--

②事業所と町が協働（協力）して地域のために実現できること

参加者	町長	懇談後の所管課の確認・補足
(町民部長) 2つ目のテーマ「事業所と町が協働（協力）して地域のために実現できること」についてお願いいたします。		
【災害時の町と企業の関わり】 町では相模川が一番大きい川で、2、3年前に氾濫しそうだという話がありましたが、そのような災害が発生した時に、企業と町で協働して、何かできる事があると思います。弊社は500名ほどの社員がおります。例えば川が氾濫した時に、我々はどう町と関わりながら、避難するとか、普通の災害であれば、食料や水の提供をするとか、町と企業間で相互にやり取りはしているのでしょうか。	石川県の能登半島地震だけではなく、熊本県の地震や、東日本大震災、大きな災害が、周期も短く来ています。地震列島と言われるように、日本はそういう状況にあるという前提で物事を考えていかなければいけません。災害が起きてからどうしようかという事後対策ではなく、事前に災害が起きた時に対応できるように、日頃からの備えというのは必要だと思っています。 町も役場庁舎内で、職員の机上訓練を行っています。各自治会単位で自主防災訓練を行っていただいています。町も全体的な防災訓練として、総合防	

災訓練を行います、実践的でない部分もあり、様々な事態を想定して訓練する必要があります。例えば、台風の場合は、ある程度予想ができますから、避難先も決められますが、地震が起きた時は、とっさに動かなければいけません。今、町内には広域避難場所が10か所あります。小・中学校と高校のほか、さむかわ中央公園の総合体育館も含めましても、限られた場所だけでは避難しきれません。ですので、町内企業の協力もしていただきながら、周辺の方の避難者の受入れをぜひお願いしたいと思います。

しかし、民間企業ですので、生産設備等がありますし、どこでも入っていいというにはなりません。当然使用できるエリアも限られてくるとは思いますが、地震で建物が危ないという観点から避難する場所であれば、広いスペースがあると良いと思います。併せて深夜帯や天候の対応も当然考えていかなければいけないと思います。しかし平日の日中等に地震が起きた場合は、従業員の方がいらっしゃいますので、企業としても自主的な防衛、備蓄状況も含めて対応していただく必要がある。

また、工業協会という組織を通して様々なお話をさせていただきたいと思っています。既に、災害時には会社で非難の受け入れを行っていただけると、自主的に町にお話をいただいている会社もございます。長期にわたっては難しいですが、一時避難の受け入れをするための場所の提供もご承諾いただいている企業もありますが、それでも大きな災害時には備えが不足することもあると思います。引き続き皆様のご協力をいただきたいと思います。お待ちしております。

町役場の職員も能登半島の被災地支援のため現地に派遣しております。職

	員の数も限られていますので、多数の職員とはいきませんが、このような状況で現地を体験すると、今後のための必要な経験になると思います。そのため、現地へ支援に派遣した職員の話を書く機会も必要であると考えております。	
【湘南大橋付近の駐車車両について】 町の工業地帯には、他の企業も事業所を設置していますが、私も町に住んでいまして、徒歩15分、高速道路の下からの道を毎日通勤しているのですが、よくトラックが停められています。警察の方が来て、退去してくださいという勧告をされている時もあるのですが、駐車スペースがないために、荷物を降ろすまでとか、停めざるを得ない状況があるようです。町の様々な事業所の人たちが関わっている関連会社の方々が、困っていると思っていて、何かスペースをつくる等できないかと考えています。 また、ごみの投棄も多い道になっていて、駐車の問題だけではなく、衛生面等のサポートも何かしていけたら、もっと事業所と関連する会社で良好な関係が築けるのではないかと思います。 (町長の発言に対して) もう少し具体的な話をさせていただくと、弊社の寮から弊社まで行く途中のカーブの道、ソフィアから来る途中の間の道なのですが、朝、出社の時間ぐらいになると、片側1車線の道路なのに、片側を完全にふさいでしまうぐらいに、トラックが	待機する場所がないと、運転手の皆さんは大体同じ所へ停めるのです。 その道路は、かなりの大型車両が停められるような、対向車線も通れるほどの幅員があるために、停めてしまうのだと思いますが、あまり長時間そこに待機、駐車してしまうと、やはりそこを通る車も非常に危ないです。	

10台ぐらい並んで停められていて、歩こうとすると、かなり危ない状態になっています。 (他の参加者からの意見) 車が追い越していく形になるのですが、そこに人が歩いていると、かなり危険です。私も自転車でそこをいつも通るのですが本当に怖い。 (他の参加者からの意見) あと、ごみが本当にひどいです。 (町長の発言に対して) そうです。黄色い液体を2リットルのペットボトルに入れて捨てて行ってしまう。衛生的にも本当に良くない。寮の人たちは全員そこから歩いてくるので、衛生面上よくないと思っていますのですが、かといって、産業道路を回って遠回りするわけにもいかないのが困っています。	(参加者の意見に対して) それは不法投棄というよりも、停まっている車から投げ捨ててしまうということですか。 (参加者の意見に対して) 駐車違反を防ぐ目的としてセンターライン上にポールを立てたとしても、逆にポールをなぎ倒していつてしまう危険もあります。 道路パトロール車が回っていますので、そこで声かけなりはしておりますが、もう少し厳しい措置であつたり、そこには駐車できませんというのを明確にしておかないといけませんので、交通関係について担当と調整して、警察も当然ながら入ってもらわないといけませんので、パトカーで回ってもらう等のお話をさせていただきます。	環境課 環境保全担当 当該道路のポイ捨てを防止するため、警告看板を設置するとともに、近隣の事業所にも状況を伝え、待機車両に関する対策について協力を求めています。
【町の道路環境について】 交通関係の話がでましたので、関係するお話をさせていただきます。せっかく弊社に来てもらったので、弊社の環境回りの交通についての話なのですが、弊社の目の前の道路についてです。恐らく、皆さん駐車場に車を止められて、駐車場から歩いてこられるときもあると思うのですが、あそこはよく交通の往来があるにも関わらず、横断歩道等がなく、車をよけて渡ってこないといけなかったと思います。それが結構危なく	安全の確保が第一ですので、危険だと思われる部分について、道路の形状もありますので、どう対処していくべきか考える必要があります。 以前、県でも、道路の横断歩道の白線が消えて見えなくなっているにも、復旧工事に中々着手されなかった事があります。ようやく今年から県で全道路について、県道だけではなく、市町村道も含めて道路の状況、白線の消えかかっている見えにくいものに復旧工事を行っていただいています。もし県がやらなければ、町が町のお金で行うのかという話になりますが、基本的には、本来	道路課 警察や町民安全課等と協議し、町道路課として行える対策については検討していきます。

て、組合員からかなり意見ももらっており、前面道路に横断歩道を設置してもらう等、何とかならないのかと、結構な方思っております。簡単に造れるものではないという事は承知していますが、恐らく毎朝100人以上は横断しており、事故も発生しているので、この場を借りてお伝えさせていただきます。	の県のやるべきことを市町村が行うと、法に触れてしまう可能性があります。 そのため、簡単に着手できるものではありませんが、そこを通られる方の安全確保を最優先に考えておりますので、町も極力、警察等の関係機関には話をしたい。横断歩道が設置される事が望ましいと思いますが、それについての規制等もあるかと思えます。その旨、承知しました。	
【産業道路周辺の鳥のフン被害について】 環境面について、弊社の寮に関係してくることで、この場でお伝えしておきたいことがあります。ソフィア茅ヶ崎のパスコ側に木がたくさん植えられているのですが、暖かい時期になってくると、どうしても鳥が木に止まります。音もすごいので、フンの被害がすごいので、弊社の寮にも少なからず影響はあるので、そこをどうにかできないのかと思っています。そこに町自体が介入できるの不明ですが、お伝えさせていただきます。敷地としては、ソフィア茅ヶ崎の中、城の下公園の中です。 (町長の発言に対して) あの辺り、確かに鳥が多いのは結構数年前から、数十年前からです。ちょうど私も10年前に寮に入っていたのですが、その時はまだベランダの外側にネットが張られておらず、そこに鳥がずっと止まって、ベランダがフンだらけになっていました。そこを会社側がネットをつけることで、鳥は大分いなくなりました。ただ、その鳥が多分、	昔は、役場の中庭にも木が、ありまして、そこにもかなりの数の鳥が夜になると来ていました。朝までいるようで、翌朝見ると下がフンで真っ白になっておりまして、鳴き声とフンの被害がありました。その際も鳥を追い払うために木を切る等の対策をしたこともありましたが、そこまでしなければ被害を少なくすることは難しかった。担当は環境課になるかと思いますが、ソフィアの自治会にもお話をします。恐らく承知していただいていることもあるかと思えます。	環境課 環境保全担当 城ノ下公園は都市公園であり、所管課は都市計画課となります。 野鳥は鳥獣保護管理法で保護されているため駆除はできず、宿り木の剪定などが現実的な対処方法となります。

向かい側の木に止まるようにもなりましたので、行き場を失った鳥かもしれません。対策は難しいとは思いますが、切るというのもなかなかできないと思うので、恐らく何かしらしていただいているかとは思いますが、ご対応していただきたいと思っています。		
【子を持つ就業者と保育園について】 横浜に住んでいるのですが、私は小さい子どもがおりまして、昨年の秋に無事、保育園の転園が決まったのですが、場合によっては園に入れなかったりするご家庭もあって、それを機に人によっては仕事を制限したり、辞める等の判断をして子どもの面倒を見るケースもあると思います。 我々も会社として、やっぱりそういった状況に陥っている従業員について考えています。例えば職場の近くに、町とこの周辺の企業で運営する託児所等があれば、仕事を制限したり、辞めることなく、その託児所に朝預けて、迎えに行き帰るということができるのではないかと考えていました。 ただ、我々企業だけで運営などではできないので、そういった部分を自治体等と協力して、町には色々な企業もあるので、そういう共同運営体のような形がとれると、働きたいけど働けないような人たちの救済にもつながると思います。それがもう少し規模を広げられれば、従業員が町に住むような誘導も考えられるかと思ひまして、提	今の時代、待機児童という言葉が身近になってきましたが、町もまだゼロではありません。ただ、2人、3人という、そういう数値ではありますが、待機児童がゼロになると、また要望が増えてくる事もあります。そういった部分では今、保育園あるいは幼稚園も認定こども園という形で、受け入れ対象の年齢を、0歳児からとしている所もありますし、小規模な受け入れ施設も、民間レベルでも、だんだん増えてはおります。 西のエリアの中で今後、建物が建つ中で、そういうお話も聞いております。その中に法令制度の中で施設を設けようというような会社側の意向もあるようです。ただ、まだ建物が建ってはいませんので、それがいつという具体的な年次はまだ出すことはできませんが、そういう中で保育関係の施設を構える話も出ています。様々な部分で周辺に利便性のある、保育の関係の手伝いができればという声もいただいていますので、分かりましたら具体的なお話を地域の皆さんにもお話ししたいと思います。	都市整備課 市街地整備担当 一部の民間企業と協議調整中の事案はあるが、未確定で公表もされていない内容であるため、具体的な施設設置年度を削除するほか、言い回し等改めた。

案の一つとして話をさせていただきます。		
【消防操法大会の開催について】 私も入っております自衛消防隊についての話なのですが、以前、町で消火技術大会等を開催されていて、それに参加する事をモチベーションに、自衛消防隊活動をやっていました。今は行っていないと思うのですが、今後、何かそのような大会があるのかお聞きしたい。今、自衛消防隊でやられている方は年に1回防災訓練のデモンストレーション等をやっておりまして、それに向けて練習はしております。それ以外の活躍の場も何か提供していただけると、より従業員のモチベーションアップにもつながるので、そういったところも含めて検討いただければと思います。役場でも毎年、ABチーム両方出されて、すごい活気強くやっていたので、きっと寂しいだろうとは思っているのですが、どうでしょうか。	ご存じのとおり、令和4年に茅ヶ崎市との消防広域化ということで、本来の消防職員、常備消防と言いますが、一本化になりまして、役場にも消防施設はありますが、今は職員は茅ヶ崎市からの消防職員として、消防団、分団は町の傘下にあります。常備消防は茅ヶ崎市が全て系列でやっています。大会を実施するには準備や指導も必要になります。そのため消防大会は消防団で実施しているものになりますので、常備消防が茅ヶ崎市に移ったことを理由に、今までの自衛消防の大会、技術研修会がなくなったというのは、少し違うと思っています。茅ヶ崎市が実施しないので、実施しないとなるのはおかしいと思いますので、それは私からお話しいたします。私も消防団におりましたので、そういったものが実施されたからこそ、体が動くのだと思います。機械の操作も分かる。災害が起きた時に手をこまねいているわけにはいきません。災害時はもちろん外から常備消防の応援が入りますが、それまで何もしないのではなく、会社としてできる体制、自衛手段は取っておくべきだと思います。	
（町長）色々なご意見の中には、まだまだ努力が足りない、何をしているんだという耳の痛いこともありました。しかし町にはそれだけ発展する余地があると思っています。そのためには、もう少し新しい時代を見て変えていかなくてははいけません。土地所有者の次の世代に声を出してもらわないと、なかなか変えていくことは難しいと思っています。 本当に様々な改善すべき点をたくさんいただきました。町だけではできない関係機関との調整が必要な、横断歩道の設置等もありました。しかし、発言をしていかないと相手にも伝わりませんので、そのような機会を積極的に設けていき、新しい町に変えていきたいと思っています。今日は本当にありがとうございました。		